

平成25年度

教養ゼミ（初年次教育科目）

実 施 状 況 報 告 書



福山大学
FUKUYAMA UNIVERSITY

目 次

経済学部	1
------	---

人間文化学部 人間文化学科	3
---------------	---

人間文化学部 心理学科	5
-------------	---

人間文化学部 メディア情報文化学科	6
-------------------	---

工学部 電子・ロボット工学科	7
----------------	---

工学部 建築・建設学科	8
-------------	---

工学部 情報工学科	9
-----------	---

工学部 機械システム工学科	1 1
---------------	-----

生命工学部 生物工学科	1 8
-------------	-----

生命工学部 生命栄養科学科	2 1
---------------	-----

生命工学部 海洋生物科学科	2 2
---------------	-----

薬学部	2 4
-----	-----

経済学部

■ 担当者氏名

(代表) 平田宏二

■ ゼミ数, ゼミの学生数

ゼミ数:9

新入生を学生番号順に8クラスに分割した。1クラスあたり平均25~26人となり少人数授業が実現した。また過年度生用として1クラスを設置した。

ゼミの学生数

鍋島正次郎(26人), 塚原一郎(26人), 藤井 隆(25人), 相原正道(27人)
吉田卓史(25人), 日野恵美子(26人), 古市雄一朗(24人), 井手吉成佳(25人)
三川 敦(過年度対象7人)

■ 実施内容

シラバスを基本に、担当教員がそれぞれの独自性を発揮しつつ概ね計画通り実施した。

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 キャンパスライフ
- 第3回 本の読み方
- 第4回 授業とは
- 第5回 講義の予習・復習(自宅学習)
- 第6回 夏休みの過ごし方
- 第7回 前期を振り返って
- 第8回 夏休みの報告
- 第9回 学科・コースについて
- 第10回 三蔵祭に参加しよう
- 第11回 三蔵祭を振り返って
- 第12回 冬休みに向けて
- 第13回 冬休みの報告
- 第14回 来年度に向けて
- 第15回 1年生の復習と2年生に向けて

■ 教養ゼミの特徴

初年次教育として「教養ゼミ」は、高校から大学への学習環境をスムーズに移行するための学習スキルを身につけて学習意欲の向上にも効果を挙げている。また、教員とゼミ仲間とのグループディスカッションやプレゼンテーションなどを通じて、課題の探求力と社会の中で絆をつくる自己表現力やコミュニケーション力を養っている。

平成25年度経済学部で実施した教養ゼミの代表的な取り組みは、以下のとおりである。

・「読む」、「書く」、「話す」の三つの能力の向上を目指した。経済学者が執筆した中学生向けの本を読ませ、要約を書かせた。各自に対してコメントを返し、また、良い例を紹介した。後期の最初に「旅先または地元の紹介」

最後に「専門分野の理論など」についてプレゼンをさせた。プレゼンは学生同士に評価(投票)をさせた。

・前期は「大学学びのことはじめ」の本を用い、大学生活で必要なことを学んだ。後期は実践編として、図書館見学や選んだ本の紹介、文化祭参加とそのまとめ、グループでの数学学習などを行った。

・図書館見学、授業の欠席に関する注意、長期休暇中の諸注意など、学習・学生生活全般に関する指導の他、担当者自身の授業(2年次以降開講)に関する紹介を行った。また、年度末にはレポートを提出させた。大学での学習に慣れさせ、2年次以降の専門課程への円滑な接続を図ることを目的に授業を構想した。

・将来の目標設定を中心に、卒業後に活躍できる人物像を想定した上で大学での学び方、思考法を学ぶ。また、基礎学力の向上を目指した。

・すでに入学をして1年以上経過をした者たちが対象なので、福山大学についてのガイダンスではなく、文章の読み方・書き方の学習と討論を行うときのコツなどを修得することを目標した。実際のゼミでは、司会進行役・書記などを決め、各自の課題を発表させそれらをもとに討論などを行うことを複数回繰り返した。

■ 教養ゼミの成果

平成 25 年度経済学部で実施した教養ゼミの代表的な成果は、以下のとおりである。

・「読む」、「書く」については、教養ゼミの数回の取り組みで向上させるのは困難であったと感じている。中学生向けの本ではあるが、そもそも正確に読めていない節があり、その要約というのは難易度が高すぎたのかもしれない。「話す」については、二度目のほうがテーマが難しく、発表時間も長い、かなり上手にできる学生が何人もいた。たった二度の取り組みではあるが、いくらかの向上が見られた。

・グループ活動を多く取ったため、出席率も良く、途中で放棄した学生はいなかった。3 年次への進級が心配な程、単位が少ない学生もいなかった、大学生活への導入という目的は達せられた。

・ほぼ授業計画通りに進行したと思われる。ただし、私が担当した教養ゼミの学生の中から、年度内に休学者と退学者がそれぞれ 1 名と 3 名出た。

・卒業後、社会に出た後の目標や、生活に必要な経済的状況を検討することで大学での学びがいかに大切な理解できたと思う。

・各自がそれぞれの役目を行い、違う立場を経験することにより、ディスカッションを活発に行うコツの様なものを少しずつ理解してくれたと思う。4月の時点とは別人の様に、自分の考えなどをコンパクトにまとめ発表することが出来るようになり、今回のゼミは成功ではないかと考える。

■ 課題

平成 25 年度経済学部で実施した教養ゼミの代表的な課題は、以下のとおりである。

・三つの能力向上を目指したが、欲張りすぎた感がある。目標を絞ったほうが、より良い成果を得られたであろう。また、中学生向けの本でも難しかったようで、学生への期待を下げたほうがより良い成果が得られたと思われる。プレゼンは、初回を簡単なテーマにしたことで、学生が取り組みやすく、うまくいったと思われる。学生同士の評価(投票)は良い刺激になったと思われる。

・担当学生数が多すぎて、しかも 2 週間に 1 度のペースの授業なので、個別指導までは出来なかった。普通教室なので、ディスカッションはやりにくかった。

・教養ゼミ担当者と担任とが分離していたのは問題だったと思われる。また、教養ゼミが隔週であったのも、学生へのきめ細かな指導という点では問題だった。なお、今年度は、教養ゼミ担当者が 1 年生の担任であり、また、教養ゼミも毎週(45 分)行うという形態に変更された。

・個人ワークが主体だったため取り組みの意識に差があった。将来の目標が明確な学生が少なく、最初の目標設定が難しかった。

・できるだけ学生に主体的に行ってもらおう事を目指し、教員はできるだけ介入しないように心がけたが、少し介入が多かったと思う。今後は、介入ではなく、上手い誘導ができるよう心がけたい。

人間文化学部 人間文化学科

■ 担当者氏名

青木美保

■ 教育目標および授業のねらい

学問の基礎とともに、実学的な能力や国際的な見識、創造力豊かな人間性を備えた学生の育成を目標とする学科の人材育成像に則り、教養ゼミでは、受講生たちに教員の専門等に関連した様々なテーマについて研究・討論させ、的確な判断力・行動力の向上を図ること、および、少人数での授業体制の中で、専門の内容を通して、教師と学生、学生相互の信頼関係の構築を目指している。

■ 前期実施内容

学生・教員を2グループ(教員4人づつ、学生20人程度)に分け、それぞれのグループで教員4人が各3回程度担当してオムニバスで授業を展開する。

その最初と最後の授業は、各グループの教員全員が集まり、授業全体の目標の共有や成果についての検討を行って、授業の目標達成を徹底させている。

授業の学習成果は、「幅広い教養を修得するための基礎力(読む力・書く力)を身につけること、自ら発する問題意識とそれを解決する創造的な思考力を身につけること」である。

授業の概要は、シラバスに記す通りであるが、2グループで共通に

- 1 回 教養ゼミとは(全教員)
- 2 回～4 回 大学での学びについての導入
- 4 回～14 回 各教員の専門を通しての導入ゼミ(各教員)
- 15 回 充実した大学生活とは(全教員)

学生の興味・関心による主体的な問題意識の開発、それについての文献調査などの問題追究の過程の体験、調査結果をまとめる(書く)こと、それを発表すること、他者の発表を聞いてコメントすること、など2年生以降の授業に関わるプレ体験を主な内容とする。

■ 前期教養ゼミの成果

授業の方法について学科内での議論があり、今年度の達成度について独自のアンケートを実施した(添付、回答率87% 33人)。その結果、先生との人間関係については、よくできた、まあまあよかったが合わせて30人、仲間との人間関係は、よくできた、まあまあよかったが合わせて30人、大学での勉学に意欲がわいたかについて、わいたが30人、教養ゼミの授業で何らかの力が身に付いたと答えた者は延べ25人、どんな能力かを聞いたところ、発表力が10人、聞く力が6人、読む力3人、コミュニケーション力6人という結果であった。自由記述においては、「あまり接点のなかった先生や同じ学科内の人とコミュニケーションがとれるので良いと感じた。」「週に一度、みんなで集まることが楽しかった。」など、仲間との人間関係ができたこと、「いろいろな人たちの意見が聞けるのでいいと思った。」「オムニバス形式なので毎回楽しんできた」など、授業の楽しさを味わったことが挙げられた。一方、「文章を書く量が多かった。」「発表がつらかった」といった現在の授業のあり方について、少数だが抵抗感を述べる意見も聞かれた。

この学年は、全体としてまとまりのある学年で、お互いの人間関係が早い時期にとれ、良い人間関係が築かれたことが勉学の意欲にも現われている。ただ、一方グループができて、グループ外のメンバーとはなかなか交流がないという近年の学生の人間関係の一端も伺える。仲間にはなしかけづらいと答えた学生1名がやはり、授業についても面白くないと答えている。いずれにしろ、入学早い時期の人間関係づくりが最も重要な課題であることは疑いなく、その課題は今年度は十分に果たされたと言える。数年来、現在のオムニバス形式の授業について検討してきたが、教養ゼミのあり方について新しい方法の実施に向けて、平成26年度は後期に「文化リテラシー入門」という科目を新設した。今回の課題として1年次の主要科目として学生にどの程度の力が身に付いたかという点に疑問があり、人間文化学科のディプロマポリシー実現に踏み込んだ指導を目指して、特に「読む」「書く」力を付けることを目指した授業として、新設科目を設計した。26年度はさらに、教育システムの充実に力を入れた。

■ 問題点、改善点、対応策

実質的な力を身につけること、特に「読む」力充実のため、新設科目「文化リテラシー入門」を開設した。

「教養ゼミ」の授業アンケート2013

人間文化学科教育システム導入委員会

人間文化学科では、演習授業の内容を検討しています。2013年前期の教養ゼミの授業について、下記の質問に答えて下さい。
(33名解答)

1. 先生との人間関係はできましたか。

- ①よくできた 8
- ②まあまあでき 22
- ③あまりできていない 3
- ④全くできない 0

2. 1で「できた」と答えた人は、どのようなことができるようになりましたか。具体的にこたえて下さい。

- ・普段しゃべらないクラスの人ともしゃべれる機会なので、楽しかった。
- ・クラスメイト、先生と話せるようになった。相談できるようになった。
- ・研究室を訪ねられるようになった。
- ・先生に気軽に質問できるようになったなど

3. 1で「できない」と答えた人は、どのようなことが難しかったですか。具体的にこたえて下さい。

- ・話しかけづらい。

4. 仲間との人間関係はできましたか。

- ①よくできた 10
- ②まあまあできた 20
- ③あまりできていない 3
- ④全くできない 0

5. 4で「できた」と答えた人は、どのようなことができるようになりましたか。具体的にこたえて下さい。

- ・一緒に昼食を食べたり、遊べるようになった。
- ・教え合うことができるようになった。
- ・日常会話、話し合い。
- ・よく話す友人ができた。
- ・関係が深くなった。
- ・みんなで楽しくわいわいできた。

6. 4で「できない」と答えた人は、どのようなことが難しかったですか。具体的にこたえて下さい。

- ・話す機会が少ない。

7. 教養ゼミを受けて、大学での勉学に意欲がわきましたか。

- ①強くわいた 5
- ②まあまあわいた 25
- ③あまりわかない 3
- ④全くわかない 1

8. 教養ゼミの授業で、大学内でのマナー(あいさつ、礼儀等)が身に付きましたか。

- ①よく身に付いた 5
- ②まあまあ付いた 23
- ③あまり付かない 5
- ④全くつかない 2

9. 教養ゼミの授業で何らかの力が身に付きましたか。

- ①よくついた 3
- ②まあまあついた 22
- ③あまりついていない 7
- ④全くついていない 0

10. 9の質問に「身に付いた」と答えた人について聞きます。どのような力が身に付いたと感じていますか。

- ①発表する力 10
- ②話を聞く力 6
- ③読む力 4
- ④コミュニケーション力 6
- ⑤その他() 0

11. 「教養ゼミ」について、自由に感想を述べて下さい。

- ・あまり接点のなかった先生や同じ学科内の人とコミュニケーションがとれるので良いと感じた。
- ・週に一度、みんなで集まることが楽しかった。
- ・教養ゼミの大切さを考えることができてよかったです。
- ・いろいろな人たちの意見が聞けるのでいいと思った。
- ・担任以外の先生と話ができることがよかった。
- ・いい授業だった。
- ・文章を書く量が多かった。
- ・オムニバス形式なので毎回楽しんできました。
- ・あまり面白いものではなかった。
- ・発表がつまらなかった。

人間文化学部 心理学科

■ 担当者氏名

(代表) 川人潤子 (1年担任・取りまとめ係)

■ ゼミ数, ゼミの学生数

ゼミ数6, ゼミの学生数各7 or 8名

■ 前期実施内容

テーマ:ピア・サポート訓練

主な内容:ピア・サポートとは／自己紹介ゲーム, 自分自身について知ろう, 一方通行と双方向のコミュニケーション, 傾聴について／聴き方のロールプレイ, 話し合ってみよう／大切なものランキング, ストレスへの対処, まとめ

(その他に, 19号館案内, 保健管理センター・大学会館案内, 図書館案内を実施)

■ 前期教養ゼミの成果

サポートのためのスキル(傾聴, コミュニケーションなど)の訓練を行なった。学生が関係を築き, 互いに思いやりをもって支え合う雰囲気を学生の間に高めていくことができた。

2年生は, 全員が4週間に分散して, 6つの教養ゼミに2～3名ずつファシリテーターとして入り活動した。また, 2年生主催で教養ゼミ1コマを利用して, 体育館で1, 2年生合同のドッジボール大会を開催した。

さらに, 3年生, 4年生のピア・サポート・トレーナー養成講座のメンバーは, 2, 3名ほどで各教養ゼミに配属され, 全15回を通して1年生に対するピア・サポートを実施した。

このような上級生との関わりによって, 1年生のピア・サポート訓練の効果が著しく向上し, 学年を越えた交流が促進された。

■ 後期実施内容

教養ゼミは前期のみ開講だが, 学年担任だけでなく各ゼミ担当教員が後期も引き続き, 自分が担当した学生との連絡や面談, 履修上の指導に関わった。

■ 今後の課題

教養ゼミのプログラム内容について, 学生のニーズを把握し, 今後検討する予定である。

■ 特記事項

今年度も, 心理学科教員がまとめた冊子(ピア・サポート訓練のテキスト)を配付した。なお, 新入生合宿オリエンテーションでは, ピア・サポート・トレーナー養成講座の学生が考案したプログラムを実施した。

また, 今年度は保健管理センターおよび大学会館案内を取り入れた。大学会館内食堂・フーズカフェやCLAFITの案内を行い, 1年生に施設を紹介できた。

人間文化学部 メディア情報文化学科

■ 担当者氏名

(代表) 渡辺浩司

■ ゼミ数, ゼミの学生数

ゼミ数:3 (一年次担任:田中(7)、内垣戸(7)、安田(7))

■ 前期実施内容

シラバスから実施順の入れ替え、一部内容の変更はあったもののおおそ予定通り実施された。

- 1回:教務委員によるガイダンス
- 2～11回:担任による少人数ゼミ:ピア・サポートを統一テーマとしつつ、教員ごとの独自内容も実施。
 - 仲間作りのための『ピア・サポート』プログラム(心理学科作成の資料)
 - 教員インタビュー:学科教員にインタビューのアポを取るところから、学科ブログに結果をアップロードするまでを学生主体で行う。
 - 「物の見方」を考えるゼミ
- 12～15回:学科主催行事である CM コンテスト運営の準備・グループワーク、カウンセラー藤居先生によるゼミ

■ 前期教養ゼミの成果等

ゼミのねらいである、受講者の将来の夢や目標を実現するために本学科で何を学ぶかを明確にする、メディアや情報に関する職業と学科の教育目標の関係が説明できるようになるという点はおおよそ達成できた。さらに少人数編成ゼミでの「仲間作り」や、学科全体でのグループワークによる協調性育成という点においても非常に有効であったと思われる。

前年度から導入したカウンセラー藤居先生によるゼミに関して、藤居先生は学生に対して、学科教員とは異なるアプローチを取っていただけるので、学生の普段見えない側面も垣間見ることができ、非常に有意義であったと思われる。

■ 問題点, 改善点, 後期での対応等

後期は学科活動(講義科目外で実施している)や学科の専門科目である基礎演習などで引き続き初年次導入教育およびスキル教育を実施した。

工学部 電子・ロボット工学科

■ 担当者氏名

(代表: 伍賀 正典)

栗延 俊太郎, 三宅 雅保, 三谷 康夫, 田中 聡, 香川 直己, 沖 俊任, 伍賀 正典

■ 実施内容

- 1 回目(4/10)概要説明、自己紹介
- 2 回目(4/17)授業の受け方、ノートの取り方
- 3 回目(4/24)図書館訪問
- 4 回目(5/1) 保健管理センター訪問
- 5～8 回目(5/8、5/22、5/29、6/5)小グループゼミ
- 9～15 回目(6/12、6/19、6/26、7/3、7/10、7/6、7/17、7/24)ロボット競技会企画

■ 教養ゼミの成果等

- 初回では大学と学科についての説明の後、各自が自己紹介を行った。
- 2回目では基礎的なスキルとしてのノートの取り方や授業の受け方について指導した。
- 3回目では、図書館に訪問し図書館職員による図書館利用の方法説明を行った。
- 合宿オリエンテーションで実施した数学テストの結果から7つの小グループを作った。この小グループでゼミを行い数学基礎の学力底上げを行い、比較的学力のある学生には「ものづくり」の実習を行った。
- 8～15回目まで、学生を2グループに分けてミニロボットコンテストの企画・運営・参加を行った。各グループで自発的に役割分担が行われ、レスコンシーズのロボットキットの作成、ブレインストーミングや線表を用いたスケジュール管理方法、パワーポイントでの企画の発表、競技会の実施と参加等を行い、グループでの協調作業を経験した。
- ロボット競技会企画の課題では 23 号館3階の計算機室を用い、ロボット競技は 24 号館ロビーで開催した。このグループでの作業は学生間の交流を深めるものであった。
- このミニロボットコンテストの作成物は「I'gateリンピック」、三蔵祭にも出展し好評であった。これらの取り組みを12月に神戸で行われた第14回計測自動制御学会SI部門講演会の「レスキューを題材としたロボットコンテスト」のセッションで1年生自身が学会発表を行い、優秀講演賞を受賞した。

■ 問題点, 改善策, 後期での対応策

今年度は昨年度の反省を活かし、教養ゼミ予算を活用し「レスキュークローラ」やレスキューロボットコンテストフィールド作成の部材を発注し精度の高いものを作成することができた。今後も教養ゼミの予算を使用し、成果物を作成することを検討したい。

工学部 建築・建設学科

■ 担当者氏名

(代表) 大島秀明

■ 前期実施内容

25 年度の初年次教育として、後期の「教養ゼミ」、およびその前段として前期に「建築学概論」を実施し、建築に対する興味を段階的に引出し、勉学意欲を促すことを目的とした。

「建築学概論」では、各教員がそれぞれの専門分野をもとに建築の入門的な講義を行い、授業ごとにレポートを作成させ提出させた。

「教養ゼミ」では、少人数指導を原則に各教員研究室へのゼミ配属を行い、学生が自主的に学習をすすめることを主眼とした。

■ 教養ゼミの評価

「教養ゼミ」の円滑な実施を数ある目的のひとつとして、「建築学概論」では、各学生の意欲、興味や学習態度、文章表現力などの初期値を把握するために、提出されたレポートを、授業担当の各教員が「文字数」、「表現」、「熱心度」、「態度」の 4 項目について 5 段階評価を行い、それらを総合して最終評価を行った。「教養ゼミ」では、ゼミ所属学生の共同作業としての「各ゼミ独自テーマの研究レポート」の課題を行い、最終回に発表会を行った。学生は、テーマに対する興味と理解を深め、チームによる共同作業、チーム内での役割、発表のまとめ方、発表の仕方などを身につけ、一定の成果を得た。

■ 今後の課題

前期の「建築学概論」の評価データを、後期の授業や学生指導に活かせるかが今後の課題となる。後期の「教養ゼミ」では、各ゼミ単位で実施をすることで、個人では得られない成果を得た。しかし、学習意欲の低い学生が若干みられ、その対応が、今後、必要と思われる。

■ 担当者氏名

(代表) 尾関孝史

■ 目的

1年次生に対し少数クラスを編成し、初年次教育とともにコミュニケーション、ディスカッション、プレゼンテーションなどの社会性を養う。また、教養講座を受講し、教養を養う。

■ 実施内容

15回のうち、最初の5回は、テキスト「大学 学びのことはじめ：初年度ワークブック」の基づき、自己紹介、履修方法の確認、大学生活や大学施設(図書館、学生相談室)の見学、受講の心得を学んだ。残りの10回のうち5回はグループワークを行い、5回は教養講座を割り当てた。グループワークは学生を10人程度のグループに分け、テーマを与えて調査・レジメ作成・パワーポイント作成を行い、最後に発表を行った。各グループの発表の評価も学生達が行った。

テーマに関して5週間の時間を設け、

1週目 グループ分け、テーマの選択、役割分担、作業開始

2、3週目 調査、レジメ作成、パワーポイント作成

4、5週目 みんなの前で発表、評価

を行った。

グループワークでは、教養ゼミ開講の趣旨を考慮し、

- ・学生同士のコミュニケーションの機会を多くとり、お互いの理解を深める

- ・学生と教員の接する機会を多くとり、学生と教員の距離を縮める

- ・コミュニケーション、ディスカッション、文書作成、構成作業、プレゼンテーション資料作成、発表などの基礎的能力の向上

を到達目的とした。

■ 成果等

教養ゼミの趣旨である導入教育を通して、大学生活や大学施設の利用方法を学んだ。また、少人数のグループにわかれてプレゼンテーションの準備作業を行うことによって、学生同士のコミュニケーションが活発になり、お互いをより深く理解できるようになった。多くの教員と話をする機会を多くとることにより、1年生の担任以外の教員とも気軽に話せる雰囲気を作ることができた。また、プレゼンテーションの作成方法や、資料の作成などを一通り経験し、基礎的なプレゼンテーションスキルを修得させることができた。

工学部 機械システム工学科

■ 担当者氏名

木村純壮

■ ゼミの学生数

5名

■ 実施内容

1. ガイダンス, 顔合せ, 挨拶, 自己紹介準備
2. 自己紹介, スピーチについて
3. 高校と大学の相違点, 大学生活の注意点(作業と発表)
4. 授業の受け方, ノートの取り方, 学習方法(作業と発表)
5. 就職関係スケジュール, 機械技術者の資格, 大学生活の目標
6. 進路選択, 将来の希望・仕事・就職, 機械技術者の仕事・求人・就職先・資格
7. 就職活動と基礎力, 入社試験・採用試験, SPI適性検査(理科・物理関係)演習
8. 特別講義 企業講師によるモノづくりの方法
9. 時事問題(課題作業と発表)
10. 将来計画のプレゼンテーション・質問, 感想発表
11. 教養講座(1)
12. 教養講座(2)
13. 教養講座(3)
14. 教養講座(4)
15. 教養講座(5)

■ 教養ゼミの成果等

初年次教育として, 大学生活への適応, 基礎力の育成, 将来計画を目標として, 柔軟な話題を取り扱った。可能な限り毎回, 説明・問題提起, 考察, 整理, プレゼンテーション, 質疑のプロセスを経るようにして, 学生が自分で考えること, プレゼンテーションやディスカッションの機会が増えることを重視して実施した。これにより, 学生相互のコミュニケーションも促進され, 積極的に, 関心を持って取り組んだ。今後の意識向上に寄与できたと思われる。

■ 問題点, 改善策, 次年度での対応策

図書館オリエンテーションを行った方が良かった。専門分野の機械技術関係の話題を取り入れた方が良かった。

工学部 機械システム工学科

■ 担当者氏名

霧崎 展

■ ゼミの学生数

5名

■ 実施内容

- 第1回 ゼミ内容の説明、取り組み方の説明
- 第2回 EXCELの基本操作(計算式と表作成:力・圧力単位換算表)
- 第3回 EXCELの基本操作(計算結果のグラフ化:いろいろな関数の値とグラフ)
- 第4回 物理現象を解く(物体の放物線運動:スキージャンプ)
- 第5回 パワーポイント資料作成(スキージャンプの考察)
- 第6回 パワーポイント資料作成(プレゼン準備)
- 第7回 プレゼン(スキージャンプ)
- 第8回 物理現象を解く(物体の滑り運動:車の停止距離の考察)
- 第9回 特別講義
- 第10回 レポート作成・提出(物体の滑り運動:車の制動距離)
- 第11回～第15回 全学教養講座

■ 教養ゼミの成果等

学生達は設定された問題に対して、それを解くための基本的な方法を学び、自分自身で考えて結果を出すことが出来た。またその結果をプレゼン資料としてまとめるための知識や、プレゼンの「技能、態度」を、ある程度身につけることが出来た。

■ 問題点, 改善策, 次年度での対応策

学生間に能力差があることを前提としてゼミを運営した。すなわち、個々の学生が「何がどこまで出来るようになったか」を指針として、ゼミを進めた。各学生も自分自身の能力の向上を実感したのではないかと考えている。今後は、「学ぶ姿勢(態度)」にも重点をおいて指導したい。

工学部 機械システム工学科

■ 担当者氏名

布施守雄

■ ゼミの学生数

5名

■ 実施内容

- 1) 自己紹介の仕方(テキスト^(※1)使用) (※1) 大学 学びのことはじめ
 - 2) ゼミの友達を知ろう(テキスト^(※1)使用) 佐藤 智明 他 編
 - 3) 先輩との懇談(布施研究室の4年生と懇談)
 - 4) 図書館の使い方(図書館員から説明を受けた)
 - 5) 伝える力を培う(テキスト^(※2)使用) (※2) 伝える力
 - 6) わかりやすく伝える(テキスト^(※2)使用) 池上 彰 著
 - 7)～ 9) 自動車のコンポーネントの歴史を調べて、レポートに文書化する
 - 10) 各自のレポートを発表して批評し合う
- ・ 他に教養講座5回

■ 教養ゼミの成果等

- ・前半は大学生活に慣れるため茶話会的な形で進めて交流を図ったので、ゼミ仲間同士が比較的仲の良い友達となった。
- ・中盤にコミュニケーション力を養うために、テレビ等で人気の池上彰氏の著書を用いて話を進めたので、レポートの発表などにその効果があった。

■ 問題点、改善策、次年度での対応策

- ・基本的には、今年のやり方を踏襲したい。
- しかし、レポートにまとめるテーマについては、自動車に限らず広い分野を対象にすることも考える。

〔その他〕

平成25年度は、6月に入院加療のため休講にした分がずれ込み、8)～10)は後期に実施した。

工学部 機械システム工学科

■ 担当者氏名

野西利次

■ ゼミの学生数

5名

■ 実施内容

- 第1回 基礎力養成ゼミの説明および自己紹介
- 第2回 大学での学習方法、レポート作成方法
- 第3回 将来の進路、就職
- 第4回 SPI の問題を解く(理科分野)
- 第5回 SPI の問題を解く(国語分野)
- 第6回 SPI の問題を解く(数学分野)
- 第7回 一般常識問題を解く(法律・経済)
- 第8回 一般常識問題を解く(歴史・地理)
- 第9回 一般常識問題を解く(数学)
- 第10回 一般常識問題を解く(理科)
- 第11回 教養講座①
- 第12回 教養講座②
- 第13回 教養講座③
- 第14回 教養講座④
- 第15回 教養講座⑤

■ 教養ゼミの成果等

大学での勉強、学生生活、就職等について説明を行った後、SPI、一般常識問題の演習を行った。慣れていないため初めは解答に時間を要したが、演習を繰り返すうちに要領を掴み、解答時間が短くなり、正答率も高くなった。就職試験ではSPIや一般常識の試験結果が重視されており、希望する進路に進むためには、日頃から基礎的な学力や社会常識を身に付ける必要があることを学生は学んだ。

■ 問題点、改善策、次年度での対応策

学生は真面目に問題に取り組んでおり、基礎的な学力や一般常識を身に付けようと努力していた。特に問題点はないが、次年度は問題の難易度を少し下げて、より多くの問題を解かせようと考えている。

工学部 機械システム工学科

■ 担当者氏名

真鍋圭司

■ ゼミの学生数

5人

■ 実施内容

1. はじめに
2. 自己紹介、大学生活など
3. 大学での学習方法、レポートの作成方法
4. 大学の設備、勉強方法など
5. 関数について考える。変化率、微分
6. 微分の公式を覚えよう
7. プレゼンテーションの基礎
8. 微分の問題を解き、解き方を説明する
9. 物理と数学がどのように関連しているか考えよう
10. まとめ
11. 教養講座(1)
12. 教養講座(2)
13. 教養講座(3)
14. 教養講座(4)
15. 教養講座(5)

■ 教養ゼミの成果等

昨年度は数学の得意な人が集まったので、逆に今年は数学が苦手な学生を対象とし、その旨をシラバスに記述した。大学生活のことを説明し、ゼルコバでの連絡、単位や欠席のことは理解できたと思う。大学の設備で、図書館見学も行うことができた。また坂口教授のご尽力で、1回分は企業の方を招いて社会人の話を聞く機会があった。課題には皆真剣に取り組み、数学的な内容については、数学Ⅰ(必修)が合格できればよいと思う。(前期試験の結果まち)

■ 問題点、改善策、次年度での対応策

今年は何回か欠席する学生もあり、お互いに話してコミュニケーションをとることが少なかったように思う。来年はコミュニケーションが取りやすいよう、課題編成を考えたい。

工学部 機械システム工学科

■ 担当者氏名

坂口勝次

■ ゼミの学生数

5名

■ 実施内容

- 第1回 オリエンテーション(授業のねらいと進め方)
自己紹介(文章でまとめる、口頭で伝える)
- 第2回 キャンパスライフ
スタディスキルズ
- 第3回 探究テーマの設定と図書館オリエンテーション
- 第4回 情報収集(インターネット利用など)
- 第5回 情報分析
- 第6回 情報整理
- 第7回 プレゼンテーション技法
- 第8回 スライド制作(基本構成)
- 第9回 プレゼンテーションとグループ・ディスカッション
- 第10回 特別講義「企業における開発・設計」:ダイキョーニシカワ(株) 浜本昌也 講師

※上記のほか、教養講座(下記, 年間5回)も評価対象に加えた。

- 第11回 教養講座(第1回, 6月13日): 細川護熙 講師
『戦国を生き抜いた知恵』
- 第12回 教養講座(第2回, 6月14日): 大原謙一郎 講師
『倉敷と大原美術館のメッセージ』
- 第13回 教養講座(第3回, 7月4日): 小川和夫 講師
『多様な寄生虫の世界』
- 第14回 教養講座(第4回, 11月18日): トーマス・ピアシー 講師
『古今東西 笛の音色』
- 第15回 教養講座(第5回, 1月15日): 廣瀬順造 講師
『生活に役立つ身近な化学』

■ 教養ゼミの成果等

- (1)昨年度の問題点の改善として統一テーマを与え、そのテーマに沿って学生が探究するのに関心のある個人テーマを設定した。これにより、学生自身が学修意欲を持って積極的な姿勢で授業に臨むことができた。また、情報収集・分析・整理の過程で、個人テーマにおける課題を発見し、それに向き合うことで、考える力を伸ばす機会になった。
- (2)プレゼンテーションでは、準備の段階で、発表の構成とスライド制作に工夫を凝らすなど時間をかけ、プレゼンテーションの仕上がりは良好であった。
- (3)統一テーマに基づいて設定した学生自身の個人テーマは相互につながりがあり、グループ・ディスカッションでは、各テーマに関心が高くディスカッションが活発になった。
- (4)特別講義では、企業人から実際のモノづくりの話を聴くことで、技術者の仕事のおもしろさ、やりがいなどを実感し、本学科での学びの意義を再認識する機会が得られた。

■ 問題点、改善策、次年度での対応策

学修意欲の向上に資する将来社会で活躍する目標を明確にするようなキャリアデザインや就職実績などに触れることがなかったため、大学院進学や就職などの進路に対する視野を広げる機会を持つようにしたい。

工学部 機械システム工学科

■ 担当者氏名

中東 潤

■ ゼミの学生数

5名

■ 実施内容

- 【第1回】 オリエンテーション、自己紹介の方法
- 【第2回】 図書館オリエンテーション
- 【第3回】 課外活動のすすめ
- 【第4回】 資格の種類と取得方法
- 【第5回】 リサーチの方法、プレゼンテーションの方法
- 【第6回】 プレゼンテーション用資料の作成(テーマ:学生がだまされる危険について)
- 【第7回】 プレゼンテーション
- 【第8回】 キャリアデザインについて
- 【第9回】 プレゼンテーション用資料の作成(テーマ:スポーツと新素材)
- 【第10回】 プレゼンテーション
- 【第11～15回】 教養講座

■ 教養ゼミの成果等

第10回に教養ゼミを通じて得られたこと等を受講生に書いてもらった。

主な感想は以下の通りである。

- ・図書館の利用方法が分かった。
- ・大学と高校の授業の違いを学ぶことができた。
- ・自分から学ぼうという意志を持って取り組んでいく必要があると思った。
- ・プレゼンテーションのスキルを上げたいと思った。

総括すると、学生(新入生)に大学での学び方やプレゼンテーションについて知ってもらえたのではないかと考えている。

■ 問題点、改善策、次年度での対応策

本ゼミでは毎年「学生がだまされる危険」をテーマとしたプレゼンテーションを学生にやってもらっているが、この部分の関心が高いと感じている。大学生活でトラブルに巻き込まれないように、来年度はこの部分をもう少し深く扱っていきたいと考えている。

工学部 機械システム工学科

■ 担当者氏名

小林正明

■ ゼミの学生数

5名

■ 実施内容

“モノづくりを楽しもう！”というテーマで実際にモノづくりを行いながらレポートの作成方法、プレゼンテーション方法などを学習した。

- 1) オリエンテーションと自己紹介
- 2) モノづくりに必要なこと
- 3) ペーパーパラシュートの製作(検討・製作)
- 4) ペーパーパラシュートの製作(製作・レポート作成)
- 5) ペーパーパラシュートの製作(プレゼンテーション)
- 6) 紙からくりの製作(からくり機構について・検討)
- 7) 紙からくりの製作(製作)
- 8) 紙からくりの製作(製作・レポート作成)
- 9) 紙からくりの製作(プレゼンテーション)
- 10) まとめ
- 11) 第1回教養講座
- 12) 第2回教養講座
- 13) 第3回教養講座
- 14) 第4回教養講座
- 15) 第5回教養講座

■ 教養ゼミの成果等

初年度教育として、大学生活への適応と基礎力の育成を目標に取り組んだ。また、簡単なモノづくり教材を用いてモノづくりの大切さ、レポートの作成方法、プレゼンテーションの方法などを学習した。受講生はモノづくりの大切さやレポートの作成方法、プレゼンテーションの方法などを学習することができた。

■ 問題点、改善策、次年度での対応策

昨年度よりも各テーマの時間を多く取りじっくり取り組むことができたが、各自の取り組む姿勢の差があり全体的な到達目標に差が生じてしまった。次年度は導入時に興味を抱かせる必要がある。

生命工学部 生物工学科

■ 担当者氏名

原口博行

■ 生物工学科教育プログラムにおける教養ゼミの位置付け

生物工学科では、学習意欲を高め、目標を設定し達成することを目的として、演習科目や実験科目を教育プログラムに多く取り入れている。本学科カリキュラムにおいて教養ゼミは、本学・本学科の教育の特徴の理解を深めさせ、一般教養を高めながらさらに幅広く事象に対する興味を喚起する科目として位置付けて開設している。さらに初年次教育に求められている大学生生活への円滑な導入、および大学での学び方、教員や友人との信頼関係の構築にも役立つ内容を実施している。コミュニケーション力を育成するためにプレゼンテーションやディスカッションなどを積極的に取り入れて実施している。

本学では教養ゼミを前期2単位の講義科目として 15 回実施しているが、本学科では演習科目として捉えて、通年 30 回実施している。加えて、教養講座も本科目の一環としてとらえている。実施回数のゆとりを活用して、随時他科目の補講にも利用することを可としている。

■ 実施内容

回	実施日	内 容
第1回	平成 25 年4月 10 日	【福山大学の理解・・・オリエンテーションの補足、教養ゼミガイダンス】 カリキュラム作成のための履修相談、教務委員・クラス担任等との個別指導。 カリキュラムの中での教養ゼミの目的について解説。教養ゼミで取り上げたいテーマについて話し合う。
第2回	平成 25 年4月 17 日	【福山大学の理解・・・本学の沿革と理念】 大学組織・大学というものは、これまでの高等学校や中学校とはその組織が大いに異なる。大学生生活に関する解説。本学開学の経緯と今日までの沿革、本学科開設から現在に至るまでの変遷について説明し、本学学生としての誇りと自覚を促す。
第3回	平成 25 年4月 24 日	【教養を広げる・・・ディスカッション】 「目からウロコ」、「野球のデッドボール」などを例に、言い回し・熟語の由来から、教養とは何かについて話し合う。
第4回	平成 25 年5月1日	【教養を広げる・・・ディスカッション】 話題1「大学の学びの基本と知的技法」(読み物)を読んで討論 話題2 知的ゲームの後フリートーク
第5回	平成 25 年5月8日	【保健管理センター】 保健管理センターの案内とカウンセリングの利用について 言葉のキャッチボール (藤井カウンセラー)
第6回	平成 25 年5月 22 日	【体験学習・・・巨大かぼちゃ大会】 巨大カボチャ栽培のための整地・草刈
第7回	平成 25 年5月 23 日	【体験学習・・・巨大かぼちゃ大会】 巨大カボチャの苗の移植

第8回	平成 25 年6月5日	【体験学習・・・トライしよう】 公文式計算ドリルをやってみよう
第9回	平成 25 年6月 12 日	【教養を広げる・・・ディスカッション】 話題1「高学歴・低学力の風潮を正せ」(読み物)を読んで討論 話題2 知的ゲームの後フリートーキング
第 10 回	平成 25 年6月 13 日	【第1回教養講座】 第 79 代内閣総理大臣細川護熙先生
第 11 回	平成 25 年6月 14 日	【第2回教養講座】 大原美術館理事長の大原謙一郎先生 「倉敷と大原美術館のメッセージー事業と文化とシビル社会の心意気についてー」
第 12 回	平成 25 年6月 19 日	【教養を広げる・・・ディスカッション】 話題1「地理・歴史、高校教育の困難」(読み物)を読んで討論 話題2 話題 1 をフォローし、「こんな科目があればいいのに」(フリートーキング) 話題3「面白さを創り出すのは自分である」(読み物)を読んで討論
第 13 回	平成 25 年6月 26 日	【教養を広げる・・・ディスカッション】 話題1「英語の公用語化、是か非か」(読み物)を読んで討論 話題2 英語の一人称は I だけなのに日本語の一人称は・・・討論
第 14 回	平成 25 年7月3日	【教養を広げる・・・ディスカッション】 話題1 JFS2013 アンケート調査 話題2 知的ゲームの後フリートーキング
第 15 回	平成 25 年7月4日	【第 3 回教養講座】 「寄生虫の話」
第 16 回	平成 25 年7月 10 日	【福山大学の理解・・・福山大学の歌】 三蔵五訓を解説し、みんなで唱和。続いて福山大学の歌を CD で聞き、歌詞を解説。みんなで合唱。
第 17 回	平成 25 年7月 17 日	【学習意欲の喚起】 心理学科大学院生の研究アンケートへの協力 話題「天才と凡才の差が・・・」(読み物)を読んで討論 前期試験に関する留意点
第 18 回	平成 25 年7月 24 日	【教養を広げる・・・ディスカッション】 話題1「バスク・ヤポニカ」(読み物)を読んで討論 話題2 大学生活を半分終えて、変わったところは何か、討論
第 19 回	平成 25 年9月 24 日	【学習意欲の喚起・・・ディスカッション】 話題1「夏休みに何をしたか」(アンケート) 話題2「後期に何に取り組むか」(フリートーキング)
第 20 回	平成 25 年 10 月2日	【補習時間】 実験安全講習
第 21 回	平成 25 年 10 月9日	【教養を広げる・・・ディスカッション】 話題1「国のかたちと東京五輪」(読み物)を読んで討論 話題2「オリンピックであればいいなと思う競技」(フリートーキング) 話題3「2020 年の私は・・・日本は・・・」(フリートーキング)
第 22 回	平成 25 年 10 月 16 日	【福山大学になじむ・・・みんなで大学祭】 大学祭会場設営。ポスター作り。
第 23 回	平成 25 年 10 月 30 日	【教養を広げる・・・ディスカッション】 話題「素晴らしき日本文化」(読み物)を読んで討論
第 24 回	平成 25 年 11 月 13 日	【補習時間】 「化学実験」の実習講義

第 25 回	平成 25 年 11 月 18 日	【第4回教養講座】 「尺八とクラリネットの共演」
第 26 回	平成 25 年 11 月 20 日	【教養を広げる・・・ディスカッション】 話題1「東アジアを考える」(読み物)を読んで討論 話題2「最近の世の中の話」(発表)
第 27 回	平成 25 年 11 月 27 日	【教養を広げる・・・ディスカッション】 話題1「食品偽装と日本人のモラル」について討論 話題2 知的ゲーム(3個の単語から物語を作る)(発表)
第 28 回	平成 25 年 12 月 4 日	【教養を広げる・・・ディスカッション】 話題1「日本の安全保障」(読み物)を読んで討論 話題2「今年の流行語は何」(発表)
第 29 回	平成 25 年 12 月 11 日	【学習意欲の喚起】 「国際学習到達度調査」の問題をやってみよう
第 30 回	平成 25 年 12 月 18 日	【教養を広げる・・・ディスカッション】 話題「今年の 10 大ニュースは」(アンケート・発表)
第 31 回	平成 26 年 1 月 8 日	【教養を広げる・・・ディスカッション】 話題1「正月のスポーツ」(新聞報道より) 話題2「今年は何が起こるか」(フリートーキング)
第 32 回	平成 26 年 1 月 15 日	【教養を広げる・・・ディスカッション】 話題「日本浮上へ総力を結集せよ」(読み物)を読んで討論
第 33 回	平成 26 年 1 月 15 日	【第5回教養講座】 薬学部・広瀬順三先生退官講演
第 34 回	平成 26 年 1 月 22 日	【教養を広げる・・・ディスカッション】 話題1「50 年後の社会はどのようなになっているか(アイザック・シモフ)」討論 話題2「選択科目の問題点」討論
第 35 回	平成 26 年 1 月 29 日	【学習意欲の喚起】 話題「大学1年間どうであったか」(フリートーキング) 後期試験について、年間単位数と次年度の履修目標
番外	平成 25 年 6 月 1 日	【みんなで元気に】 ソフトボール大会

■ 評価について

提出されたレポートを担当または教養ゼミ担当教員が点検・評価。態度(出席状況と学習姿勢)を総合的に評価した。その結果概ねの学生が 80 点以上の評価となった。レポート等提出物は学生に返却済み。

■ 次年度への課題

- (1) 昨年の課題として、教養講座を教養ゼミの一環として実施するようになり、教養ゼミの中での位置付けをしっかりとさせることを念頭に、教養講座の内容をディスカッションの題材として取り上げる時間を持てた(上記の表には入れていない)ことは、前進である。
- (2) 福山大学教育システムを周知徹底して、教養ゼミを含めた本学での学び方を全学生に理解を促す時間をもっと必要。
- (3) 各回のゼミのテーマにより、受講生の食いつきに差がある。学生が取りつきやすい話題にするのか、従来の教養的センスを身につける話題をうまく導入するのか、毎年難しいところである。

生命工学部 生命栄養科学科

■ 担当者氏名

(代表) 井ノ内直良

■ ゼミ数, ゼミの学生数

ゼミ数: 11 ゼミの学生 5~6 名

(ただし、前期はクラス全体で実施。後期に少人数制のゼミ数 11 で実施。)

■ 前期実施内容

全体ガイダンス2回(学科全体の説明、履修科目の Web 登録など)、図書館(15 号館および 34 号館)の見学と利用法の習得、就職活動に関する説明、管理栄養士の国家試験の説明など、例年行っている教養ゼミの内容に加えて、今年度から、基礎学力向上プロジェクトを前期終了までクラス全体で実施した。基礎学力向上プロジェクトの内容は、国語(語彙力および漢字能力)、数学(計算問題)、理科(単位、化学式、構造式など)などに関する基礎力のアップを目指した練習問題の実施と解説である。本学科では、1 年生前期から管理栄養士の国家試験に出題される問題に直結する専門科目(栄養学、食品学、医学、生化学など)が開講されるが、教科書(特に医学系科目)の語句や漢字が難しく、対応しきれない学生が見受けられたことから、少人数教育は後期に回して、学科の専門科目に必要な基礎学力の向上を優先することとした。

■ 前期教養ゼミの成果

- ・学科独自の基礎学力向上プロジェクトにより、教科書(特に医学系教科の教科書)の内容の理解度の向上、生化学実験での単位換算能力、計算力などの向上などが見られた。
- ・学生各人の考え方や、大学での勉強の不安な点、国語、数学、理科などの基礎学力を具体的にゼミ担当教員が知ることができ、それらの情報を学科会議などで教員間で共有し、今後の講義準備に活かすことができた。

■ 問題点, 改善点, 後期での対応策

新入生の授業科目に対応した、国語、数学、理科に関する基礎学力向上を目指したクラス全体での実施を優先させたため、学生間のコミュニケーション能力や協調性を養うことに関しては不十分であった。後期の前半には例年通り、大学祭での学科紹介の展示の準備や当日の対応を作業班別に実施し、後半には1班 5~6 人の少人数制教養ゼミを実施することにより、学生間のコミュニケーション能力や協調性を養う。

■ 後期実施内容

後期開始と同時に、大学祭での学科紹介のための準備を班別に数回、大学祭終了後は少人数班別ゼミナールを 5 回、また学科温室での野菜栽培実習などを行った。班別ゼミナールは各担当教員の実施計画にしたがって行われた。各ゼミ班とも 1 回目は自己紹介、マナー教育にはじまり、心理学科の藤居先生による心理テストの演習、実験、演習、テーマ討論、一般のコミュニケーションなど様々な内容の班別教養ゼミが実施された。野菜栽培実習では、調理で使う食材作りと栽培の注意点について学んだ。

■ 後期教養ゼミの成果等

- ・少人数班別ゼミナールでは、学生と教員、学生同士でコミュニケーションをとることができた。また、挨拶などのマナーが身についた。
- ・前期に引続き、学生各人の考え、大学での勉強の不安などについて知ることができた。
- ・大学祭の運営により、企画力、協調性、挨拶、先輩へのマナーなどが身についた。特に後期開始から行った大学祭の準備では上級生との連絡も密にして、大学祭終了まで、よく話し合い、準備作業などを通して、上級生との縦の繋がりもできた。
- ・野菜栽培の共同作業をすることにより、学生間のコミュニケーション能力や協調性を養った。

生命工学部 海洋生物科学科

■ 担当者氏名

(代表) 三輪泰彦

■ ゼミ数, ゼミの学生数

ゼミ数:12

ゼミの学生数:9-10 名

全学生数:109 名

■ 前期実施内容

- 1) 全体ガイダンス:教養ゼミの内容説明、履修、授業、試験等の補足説明
- 2) 自己紹介(自己紹介シートおよび自己紹介発表原稿の作成、)
- 3) 図書館の利用法
- 4) 個人面談-学生生活、欠席調査など
- 5) 大学祭の展示企画-1 テーマおよび展示の原案作成-グループディスカッション
- 6) 大学祭の展示企画-2 テーマおよび展示の原案作成-グループディスカッション
- 7) 大学祭の展示企画- テーマの決定-全員でディスカッション
- 8) 大学祭の展示企画- 大学祭の物品リストの作成- テーマごとにディスカッション
- 9) 定期試験への心構え

■ 後期実施内容

- 1) 個人面談(前期成績のチェックや学生生活など)
- 2) 大学祭の計画-工程表の作成
- 3) 大学祭の準備-1 ポスター、看板、展示物の作成等
- 4) 大学祭の準備-2 水槽のセットアップ、海洋生物の採集、金魚の飼育、展示物の作成等
- 5) 大学祭の準備-3 会場の設営、展示物の備え付け等
- 6) 大学祭- 来場者への対応
- 7) 大学祭- あとかたづけ
- 8) 個人面談-欠席調査など
- 9) 大学祭の反省会
- 10) 定期試験への心構え

■ 教養ゼミの成果等

- (1)少人数体制で行ったので学生と教員、学生同士でコミュニケーションを十分にとることができた。
- (2)学生生活や教務(履修方法、欠席調査、定期試験への対応など)についてサポートすることができた。
- (3)プロダクトとして大学祭の展示企画(3つのテーマ、展示内容、必要物品等)についてまとめることができた。テーマ:1)マリンクイズ・2)金魚すくい・3)おさわり喫茶。
- (4)大学祭を通じて学生同士の団結力を高めることができ、イベントに参加したことでやりがいを感じてもらった。

- (5)大学祭の来場者(親子連れ、高齢者など)への対応を通して、教員や学生以外の人とコミュニケーションをとる経験ができた。たとえば、ほかの人により良くわかってもらうためには、わかってもらうこと、伝えたいことを整理し、相手に示す資料をしっかりと準備することが必要であることを学ぶことができた。
- (6)大学祭を十分にエンジョイしてもらった。
- (7)学生一人1人に、自分が担当した展示企画の問題点、反省点、今後の改善点をそれぞれ、まとめてもらった。
- (8)平成 24 年度の改善点の一部を今年度にフィードバックすることができた。

■ 問題点, 改善点, 対応策

- (1)少人数体制(9-10 名)指導しているが、1グループあたり1人の教員が担当しているせいか、目の行き届かない学生も出てくる場合がある。
- (2)教養ゼミが時間割の都合で 5 時限に開講しているが、1～4時限の授業を受けている学生にとっては疲れがでてきて、集中力を維持するのが難しい。
- (3)平成 24 年度と同様、2424 講義室のエアコンの状態が悪いため、学生からは「夏の時期の学習環境が悪い」という不満がでた。
- (4)教養ゼミの時間割調整が難しい。本学科では月～金の午後から学生実験が組み込まれているため教員によっては一部スケジュール合わせができないことがある。また、因島キャンパス専任の教員は、因島から本学に移動するため、教員の負担が非常に大きい。
- (5)周りの学生とうまく打ち解けることができない学生への対応が難しい。
- (6)学生数が非常に多いので全体で展示企画について仕事を進めていくのが難しいと感じた。今年度もテーマごとに積極的に取り組む学生をリーダー、副リーダー、書記として数名選抜し、その運営に指導能力を発揮してもらった。
- (7)大学祭は基本的に全員参加であるが、一部の学生は執行部の三蔵委員や各サークルに所属しており、執行部やサークル活動の仕事にそれぞれ専念してもらった。
- (8)大学祭やスモールグループディスカッションにおいて積極的に参加できなかった学生がいたので、取り組むことができる環境づくり(目標をしっかりと理解してもらう、学生の意見や考えを発表しやすい雰囲気をつくること、積極性を引き出す手法を考えることなど)を継続して行っていきたい。
- (9)昨年と同様に、学生からのアンケート調査を行い、改善点を次年度にフィードバックできるようにしたい。今年度は大学祭で3年生による3つの専門コースの展示とジョイントしたが、1年次と3年次の学生間の交流があまりみられなかった。今後は、コミュニケーションを通じて「学年の縦のつながり」を構築していきたい。学生が地域の活動(地域の祭りなど)に参加して、地域住民とのコミュニケーションをもつような企画を検討していきたい。
- (10)今年度は開催日が他学部の日程と重なったため、学友会から道具を借りることができないという理由で新入生歓迎ソフトボール大会を開催することができなかった。学生が新入生歓迎ソフトボール大会を非常に楽しみにしていたので今後は計画性をもって実施していきたい。

薬 学 部

■ 担当者氏名

(代表) 岡村信幸

(担当) 岡村信幸、井上裕文、田淵紀彦、松岡浩史、上敷領淳(薬学入門担当)
片山博和、田中哲郎、土谷大樹、江藤精二、大西正俊(クラス担任)

■ ゼミ数, ゼミの学生数

新入生全員に対し、薬学入門Ⅰならびに教養講座において教養ゼミを実施した。

■ 実施内容

1 薬学入門Ⅰ(担当責任者:岡村信幸)

毎週、クラス単位でスモールグループディスカッション(SGD)を行い、薬学入門担当教員(3名)ならびにクラス担任(5~6名)がチューターとして指導を行った。さらにP3クラスにメンター(5年生)を配置した。

※日程・方略は別紙参照

2 教養講座(担当責任者:片山博和)

教養講座(5回)を受講後、レポートを毎回提出させ、クラス担任が指導を行った。

■ 教養ゼミの成果

学生が主体となって能動的に学習・情報共有、さらに体験することによって『気づきの学習』を実践することで、学生の行動変容のためのきっかけ作りになる。上記の学習により、次の事項について向上ならびに醸成を得たと考える。

- ・学生-教員間ならびに学生同士のコミュニケーションの活性化
- ・薬学生としてのモチベーションの醸成
- ・情報の収集と処理ならびにプレゼンテーションなどの能力の向上
- ・能動学習のための動機づけ
- ・問題解決能力の向上
- ・挨拶、マナー等の社会性の涵養

■ 問題点, 改善策等

・学生ならびに実施施設からのアンケート調査によって、毎年改善を行っている。

・平成25年度は教養講座の出席率が悪く、教養講座レポート未提出のため、17名(休学1名含)の学生が不合格となった。この反省を踏まえ、来年度は新入生オリエンテーションでより一層の周知を徹底する予定である。

業 学 入 門 前 期 (平成25年度)																						
4 月					5 月					6 月					7 月							
							3	4	5			3	4	5			3	4	5			
		3	4	5	1	水				1	土				1	月	方略7A(体験学習) P1					
3	水	入学式			2	木				2	日	中間試験			2	火	方略7A(体験学習) P2					
4	木				3	金	憲法記念日			3	月				3	水	方略7A(体験学習) P3					
5	金	合宿オリエンテーション			4	土	みどりの日			4	火				4	木						
6	土				振替休日			5	日	こどもの日					5	水	5	金				
7	日										6				木				6	土		
8	月				6	月				6	木			7	日							
9	火				7	火				7	金			8	月	方略7A(体験学習) P1						
10	水				8	水				8	土			9	火	方略7A(体験学習) P2						
11	木				9	木				9	日	方略7A(体験学習) P1 方略7A(体験学習) P2 方略7A(体験学習) P3			9	火	方略7A(体験学習) P2					
12	金				10	金				10	月				10	水	方略7A(体験学習) P3					
13	土	方略1			11	土	方略3 菅先生 ※1, 2限目			11	火				11	木						
14	日				12	日				12	水	方略7A(体験学習) P1 方略7A(体験学習) P2 方略7A(体験学習) P3			12	金						
15	月				13	月				13	木				13	土	方略7B ※1, 2限目					
16	火				14	火				14	金				14	日						
17	水				15	水	開学記念日			15	土			15	月	海の日						
18	木				16	木				16	日	方略7A(体験学習) P1 方略7A(体験学習) P2 方略7A(体験学習) P3			16	火						
19	金				17	金				17	月				17	水						
20	土	方略2A			18	土	方略4 石原先生 ※1, 2限目			18	火				18	木						
21	日				19	日				19	水	方略7A(体験学習) P1 方略7A(体験学習) P2 方略7A(体験学習) P3			19	金						
22	月				20	月	方略5 P1			20	木				20	土	方略7C 発表会 ※1, 2限目					
23	火				21	火	方略5 P2			21	金				21	日						
24	水				22	水	方略5 P3			22	土			22	月							
25	木				23	木				23	日	方略7A(体験学習) P1 方略7A(体験学習) P2 方略7A(体験学習) P3			23	火						
26	金				24	金				24	月				24	水						
27	土	方略2B			25	土	方略6 ※1, 2限目			25	火				25	木						
28	日				26	日				26	水	方略7A(体験学習) P1 方略7A(体験学習) P2 方略7A(体験学習) P3			26	金						
29	月	昭和の日			27	月				27	木				27	土	前期定期試験					
30	火				28	火				28	金				28	日	全体説明:34202教室					
					29	水				29	土						SGD: P1 研修室1					
					30	木				30	日						SGD: P2 研修室2					
					31	金													SGD: P3 プレナリーセッション室1			

薬学入門前期方略(平成25年度)										
方略	到達目標	日	細目	学習内容	場所	人的資源	時間(分)	備考		
1	【SGDについて】 SGDの概略ならびに意義を認識する。	4月13日(土) 1～2時限	1-1	講義	1. 薬学入門について(約15分) 2. SGDについて 3. KJ法について	34202	岡村・井上・田淵・上敷領・松岡(担任)	40	資料配付・作業説明	
	1-2		SGD	「今心にあること(希望、期待、不安)」を抽出(KJ法)	※1	担任	10	資料配布:課題(1) 「今心にあること」をタックシールに書き出す		
	1-3		SGD	「今心にあること(希望、期待、不安)」の島とタイトルを作成する(KJ法)		担任	40	模造紙に島とタイトルを作成する		
	1-4		SGD	今日からできること(今後の行動目標)		担任	30	資料配布:課題(2)		
	1-5		発表	発表(各5分)・総合討議(各15分)		担任	50			
2	【薬とその適正使用】 1. 「薬とは何か」を討議し、概説できる。 2. 種々の剤形とその使い方について討議し、概説できる。 3. 一般用医薬品と医療用医薬品の違いを討議し、概説できる。	4月20日(土) 1～2時限	2A-1	講義	「人にやさしい薬・良い薬(薬の種類や分類)」について(KJ法)	34202	田淵	10	作業説明	
	2A-2		SGD	「人にやさしい薬・良い薬(薬の種類や分類)」について抽出(KJ法)	※1	担任	15	意見をタックシールに書き出す		
	2A-3		SGD	「人にやさしい薬・良い薬(薬の種類や分類)」の島とタイトルを作成する(KJ法)		担任	40	模造紙に島とタイトルを作成する		
	2A-4		発表	発表(各5分)・総合討議(各15分)		担任	50	発表:模造紙		
	2A-5		調査SGD	疑問点についての調査とまとめ	SGD室図書館	担任	60	図書館の書籍を利用して調査		
	【薬剤師の活動分野】 1. 薬剤師の活動分野について概説できる。 2. 自分の将来の進路とその仕事内容について討議する。	4月27日(土) 1～2時限	2B-1	講義	「薬剤師の仕事の種類(卒後の進路と仕事内容)」について	34202	田淵	10	作業説明	
			2B-2	SGD	「薬剤師の仕事の種類(卒後の進路と仕事内容)」について抽出(ブレインストーミング)	※1	担任	15	カードに意見を書いてグループ内で発表	
			2B-3	SGD	「薬剤師の仕事の種類」についてマインドマップの作成		担任	40	模造紙にマップを作成	
			2B-4	発表	発表(各5分)・総合討議(各15分)		担任	50	発表:模造紙	
			2B-5	調査SGD	疑問点についての調査とまとめ	SGD室図書館	担任	60	図書館の書籍を利用して調査	
	3	【ヒューマニズム・コミュニケーション】 行動変容のための役立ち感と幸せについて気づきの学習をする。	5月11日(土) 1～2時限	3	講義	2 グループワーク (お友達の力を借りて問題解決)	研修室	普(担任)	180	
4	【マナー・コミュニケーション・薬剤師について】 薬学生としての心得や理想の薬剤師について学ぶ。	5月18日(土) 1～2時限	4	講義	1. 基本的なマナー・コミュニケーション 2. 薬剤師のやり甲斐	研修室	石原(担任)	180	レポート提出	
5	【薬剤師の活動分野】 1. 病院ならびに保険調剤薬局における薬剤師の役割について調べて討議し、医薬分業を概説できる。 2. 薬剤師と共に働く医療チームの職種を挙げ、その仕事を概説できる。 3. 医薬品の適正使用における薬剤師の役割について討議し、概説できる。	5月20日～ 5月22日 ※詳細は日程表参照	5-1	講義	「病院・保険調剤薬局の薬剤師の仕事(仕事内容と係り合い)」について	34202	田淵	10	作業説明	
	5-2		SGD	「病院・保険調剤薬局の薬剤師の仕事(仕事内容と係り合い)」について抽出(ブレインストーミング)	※1	担任	15	カードに意見を書いてグループ内で発表		
	5-3		SGD	「病院・保険調剤薬局の薬剤師の仕事」についてイメージマップの作成		担任	40	模造紙にマップを作成		
	5-4		発表	発表(各5分)・総合討議(各15分)		担任	50	発表:模造紙		
	5-5		調査SGD	疑問点についての調査とまとめ	SGD室図書館	担任	60	図書館の書籍を利用して調査		
	5-6		SGD	見学施設への質問内容をリストアップ	SGD室	担任	20	ホワイトボードに意見を書く USBメモリー持参 自己紹介票の雛形配付		
6	【事前学習】 1. 見学施設におけるマナーならびに注意点を討議する。 2. 見学施設への事前連絡の仕方ならびに質問内容について討議する。	自己学習		調査課題:見学施設への質問内容や専門用語について						
		5月25日(土) 1～2時限	6-1	講義	訪問時の注意点や事前連絡の仕方について	34202	田淵	10	作業説明	
			6-2	SGD	訪問時の注意点や事前連絡の仕方について討議	※1	担任	30	ホワイトボードにまとめる	
			6-3	発表	発表(3分)・討議(5分)			60	発表:ホワイトボード	
			6-4	DVD	発表準備(注意事項や質問内容など)	34202	岡村	40		
			6-5	SGD	訪問時の注意点や事前連絡の仕方や見学施設への質問内容を再討議	※1	担任	20		
			6-6	SGD	質問票の作成			20	質問票の雛形配付 USBメモリー持参	
		5月27日～ 5月31日	質問票提出		質問票・自己紹介票を担任に提出(5/30まで)		※担任は質問票・自己紹介票を点検後6/3までに施設へFAX			
			事前連絡		見学施設(指導薬剤師)へ連絡し、事前に訪問時間等を調整					
			自己学習		質問内容や専門用語について充分学習しておく					
7	【早期体験学習】 1. 病院における薬剤師および他の医療スタッフの業務を見聞し、その重要性について自分の意見をまとめ、発表する。 2. 保険薬局における薬剤師の業務を見聞し、その重要性について意見をまとめ、発表する。	6月10日～ 7月10日 ※詳細は日程表参照	7A	見学	体験学習	病院	指導薬剤師	60～ 240		
					体験学習	薬局		60～ 240		
		自己学習				討議・まとめ・発表準備				
		7月13日(土)	7B	SGD	発表準備 後期実習施設選択	※1	担任	180	ノートPC 施設選択票の配付・回収	
		7月20日(土) 1～2時限	7C	発表	発表・討議(各5分)	※1	担任	180	クラス別公開発表会 (施設単位)	
※1: P1クラス:研修室1 P2クラス:研修室2 P3クラス:プレナリーセッション室1										

大 学 教 育 セ ン タ ー